

アセスメント結果シート

記載者

記載補助

記入年月日	令和 年 月 日 ()									
学校名 (学年)	(年生)									
ふりがな						平成 年 月 日 生 (歳)				
本人氏名						性別		電話		
住所	〒									
アセスメント機関					担当者名					
アセスメント期間と利用状況：		令和 年 月 日～令和 年 月 日			利用	日 遅刻		日 早退	日	
アセスメント実施場所 (事業所/企業)					作業内容		実利用日数 (時間)			
							日 (時間)			
項目	1	2	3	4	備考					
I 日常生活 (6 項目)	0	0	0	0						
II 対人関係 (7 項目)	0	0	0	0						
III 作業力 (7 項目)	0	0	0	0						
IV 作業への態度 (5 項目)	0	0	0	0						
合計数	0	0	0	0						
活動に対する得意な点と不得意な点	決められた手順に沿って作業に取り組むことができ、時間をおいても手順を覚えて遂行できています。また、課題に対して自ら工夫して取り組む姿勢が見られ、丁寧な言葉遣いやお礼・謝罪など基本的なコミュニケーションも適切に行えています。周囲の様子に気を配りながら活動に参加し、グループワークでは自分の考えを発言する場面も確認できました。一方で挨拶や疑問点の相談アド自発的な働きかけが苦手で今後も支援が必要です。									
卒後を見据え、在学中に経験を積むことが望ましい事項	困ったことや疑問点を適切に伝える力を在学中に育てていくことが重要だと思われます。気になる点を内に溜めず、自分の言葉で状況を説明したり相談したりする経験を積むことで職場でのトラブル防止や円滑な業務につながります。また、挨拶や報告といった基本的なコミュニケーションを自発的に行う練習を重ねることで安心して働ける基盤が整っていくと思われます。信頼できる大人や支援者に気持ちを伝える成功体験は卒業後の職場で自身の状態を表現し、必要な支援を受ける力にもつながります。									
本人の力が発揮できる環境について	見通しがはっきりしており、手順や作業内容が明確に示されている環境だと自身で考えられます。決められた流れに沿って安定して取り組めるだけでなく、修得した作業を確実に遂行できる力も高いため、成長につながる恒常的な作業を提供できる環境も適しています。また、本人の話を丁寧に聞いてもらえる機会があると、自分の気持ちを言葉にしやすい様子が見られます。困ったことを相談しやすい支援者と関係を築けると自分の状況を伝える経験につながり、安心して行動できる基盤が整っていくと思われます。									
将来の可能性	本人のやりたいことやできることに合った環境が整えば、将来的には一般就労も十分に目指せる力を持っていると考えられます。ただ現時点では進路の具体的なイメージには至っておらず、まずは本人に合う、就労継続支援A型等での訓練をとおして働く感覚を育てていくことが望ましいです。特に手順が明確で見通しが持てる作業や取得した内容を安定して遂行できる業務がある場所が適していると考えられます。また、本人の話を丁寧に聞きながら無理のない範囲で作業量を調整してくれる支援体制のある環境が合いやすいです。									

就労選択支援事業所の総合所見

※ 特別支援学校生徒の際は、卒業を視野に入れた学校生活での過ごし方等を記載。

決められた手順に沿って安定して作業に取り組む力や修得した内容を確実に遂行できる力を持っており、課題に対して自ら工夫して取り組む姿勢が見られます。このような強みは今後の進路選択において重要な基盤となります。また、働く上では自分の気持ちや状況を適切に伝える力が大切になるため学校生活の中でその力を育てていくことが望まれます。現在、備えている作業力や対人面の良さをより伸ばしていくことで卒業後の進路のイメージを自然と明確にしていけると考えられます。まずは本人に合った就労継続支援A型等での訓練を視野に入れつつ、学校生活の中で働く力やコミュニケーション力を無理のない形で育てていくことで将来の可能性がさらに広がっていくことが期待されます。

アセスメント結果シート

記載者

記載補助

記入年月日	令和 年 月 日 ()									
学校名 (学年)	(年生)									
ふりがな						平成 年 月 日生 (歳)				
本人氏名						性別		電話		
住所	〒									
アセスメント機関					担当者名					
アセスメント期間と利用状況：		令和 年 月 日～令和 年 月 日				利用		日 遅刻	日 早退	日
アセスメント実施場所 (事業所/企業)					作業内容		実利用日数 (時間)			
							日 (時間)			
項目	1	2	3	4	備考					
I 日常生活 (6 項目)	0	0	0	0						
II 対人関係 (7 項目)	0	0	0	0						
III 作業力 (7 項目)	0	0	0	0						
IV 作業への態度 (5 項目)	0	0	0	0						
合計数	0	0	0	0						
活動に対する得意な点と不得意な点	手先が器用であり、細かい作業は集中して精度の高いものを仕上げるができる。言語指示により作業を理解することが難しいため、絵や図を用いた視覚支援が望ましい。理解していない場合にオウム返しになることが多く、その場合には伝え方を変えて絵や図も活用しながら説明があるとよい。									
卒後を見据え、在学中に経験を積むことが望ましい事項	学校生活におけるカリキュラムの中で時間内でどの程度の量を取り組むのか目標設定を行い、実施していくこと。 作業の指示を受ける際に工程を行っているところを見せてもらいたいと自身から伝えること。									
本人の力が発揮できる環境について	本人の希望する調理の作業のほかに裁縫、部品の組み立て等の作業は本人の能力が発揮しやすい仕事内容である。 環境面ではわからないことがあった場合に誰に質問をすればいいのかが決まっている職場だと本人が安心して仕事をすることができると思われる。									
将来の可能性	作業の正確性は高いが作業速度については本人が意識していない面がある。本人の得意な面を伸ばす方法としてこれまで指摘が少なかったと思われる。作業をしっかり理解することで再現性は高いため、学校を卒業後に就労継続支援B型事業所等で段階的に経験を積むことで一般就労の可能性はあると思われる。									

就労選択支援事業所の総合所見

※ 特別支援学校生徒の際は、卒業を視野に入れた学校生活での過ごし方等を記載。

作業理解は言語による説明に加えて実際に作業を見ることで正確に実行できます。集中して作業を行っていると言語は少ないですが作業に取り組み疲れが出て集中力が低下すると独語があり、同時に手が止まる様子も見られました。

作業速度について今後、生産性が求められる場合では課題となります。就労継続支援B型事業所等で経験を積み、正確性を維持しながら徐々に作業速度を上げることで将来的に一般就労の可能性が見えてくると思われます。